

# 月刊「建築技術」2018年 年間企画案

株式会社建築技術 編集部  
〒101-0061 東京都千代田区三崎町 3-10-4 千代田ビル 4階  
TEL 03-3222-5951 FAX 03-3222-5957

## 1月号 「わかっているつもりだけの結露」

[監修：南雄三（住宅技術評論家）＋本間義規（宮城学院女子大学教授），協力：松岡大介（ものづくり大学准教授）]

原稿締切日：2017年11月下旬 雑誌発売日：2017年12月17日

戸建て住宅の健康でヒートショックや熱中症は着目されるが、かびによる健康への影響には目が向けられていない。新築住宅ではマニュアルに沿って設計・施工すれば結露は防げるが、既存住宅では結露の知識がなければ実害に対処することは難しい。本特集では、結露のメカニズムと実害を知り、結露を防ぐための対策と、結露を予測するための計算方法を解説する。

## 2月号 「RC工事における不易流行のテクノロジー」

[監修：大塚秀三（ものづくり大学准教授）＋中田善久（日本大学理工学部教授）]

原稿締切日：2017年12月中旬 雑誌発売日：2018年1月17日

本特集では、「型枠工事」「鉄筋工事」「コンクリート工事」の基礎知識と各工事が現状抱える課題への対処法を解説する。基礎知識の解説では、各工事の基本事項から、経験則に基づく応用的な知恵を解説し、若手技術者がハンドブックとして活用できる内容とする。加えて、技術者減少や施工管理者と専門工事業者の役割と責任、資格者制度など、RC工事を取り巻くさまざまな問題についても考察する。

## 3月号 「「仕組み」から鋼構造設計の勘所を学ぶ」

[監修：宮里直也（日本大学理工学部教授）]

原稿締切日：2018年1月下旬 雑誌発売日：2018年2月17日

本特集では、2017年4月号に引き続き、若手技術者やわかっているつもり技術者を対象に、構造計画で見落とされやすいポイント、施工段階で注意すべきポイントを解説する。加えて、ディテールのつくり方や施工性を考慮した設計なども解説する。

## 4月号 「知ってるつもりで知らないあと施工アンカー」

[監修：松崎育弘（東京理科大学名誉教授）]

原稿締切日：2018年2月下旬 雑誌発売日：2018年3月17日

既存ストックの活用が活発化し、あと施工アンカーが多く使用されている。一方、あと施工アンカーについて、深い理解を持っている技術者が多くないという指摘もある。本特集では、あと施工アンカーと取り巻く現状を整理するとともに、性能の評価法や施工上の注意点を解説する。

## 5月号 「壁式鉄筋コンクリート造（WRC造）の再発見」

[監修：勅使川原正臣（名古屋大学大学院教授）]

原稿締切日：2018年3月下旬 雑誌発売日：2018年4月17日

RC構造の低層建物や小規模建物では、壁式鉄筋コンクリート造を採用することが多い。壁式構造は壁を比較的自由に配置できる構造形式のため、平面計画の自由度は高いが、広い空間を必要とする建物では制約が発生する。また、施工については工業化が難しいという側面もある。本特集では、壁式構造の構造設計、材料・施工などの注意点を取り上げ、設計のポイントを解説する。

## 6月号 「木造の靱性設計——木造の保有水平耐力の可能性」

[監修：大橋好光（東京都市大学教授）]

原稿締切日：2018年4月下旬 雑誌発売日：2018年5月17日

木造建築物の多層化が加速している。5階建の木造建築が建設され、今後は10階建も視野に入ってきた。一般的な木造建築の場合、高さ30mを超えなければ、保有水平耐力計算は必要ない。しかし、一般的に多層構造の設計には靱性確保の検証は欠かせないことから、本特集では、木造建築の靱性設計の現状を整理し、木造での保有水平耐力の可能性をまとめる。

※特集テーマ、監修者、特集の順番は、変更になる可能性があります。あらかじめご了承ください。

# 月刊「建築技術」2018年 年間企画案

株式会社建築技術 編集部  
〒101-0061 東京都千代田区三崎町 3-10-4 千代田ビル 4階  
TEL 03-3222-5951 FAX 03-3222-5957

## 7月号 「忘れてはならない杭基礎の設計・施工の勘所」

[監修：桑原文夫（日本工業大学名誉教授）＋加倉井正昭（パイルフォーラム(株)）]

原稿締切日：2018年5月下旬 雑誌発売日：2018年6月17日

杭の偽装問題から2年が経過したが、未だ構造設計者の杭の設計・施工に関する知識不足が指摘されている。構造設計者は、杭を正しく設計・施工するためには、敷地の地盤情報を正しく把握することが重要である。本特集では、設計・施工を行うための地盤情報の読み取り方、杭の到達確認、杭基礎の設計・施工の勘所を解説する。

## 8月号 「JASS6改定のポイントと鋼構造設計の留意点」

[監修：田中 剛（神戸大学大学院教授）]

原稿締切日：2018年6月下旬 雑誌発売日：2018年7月15日

JASS6が10年ぶりに改定された。職人不足の影響を受け、RC造よりS造の需要が高まり、建築専門書でもS造関連の書籍の売れ行きは堅調である。2020年東京五輪に向けて急ピッチで建設工事は進行しているため、設計者や施工者はその対応に追われている。そのような状況を鑑みると、JASS6を読み解く時間的制約があると想定される。そこで特集では、JASS6改定の解説書として、改定のポイントの解説と改定で知りたい点をQ&Aにより解説する。また、構造設計者に向け読み落としはならないポイントを解説する。

## 9月号 「非構造部材の新たな動向を探る」

[監修：清家 剛（東京大学准教授）]

原稿締切日：2018年7月下旬 雑誌発売日：2018年8月17日

東日本大震災以降、天井を中心とした非構造部材の安全性が注目されているが、現在においても非構造部材について「誰が」責任をもって安全性を担保するのか、という点は曖昧な状況にある。一方、JSCAを中心に非構造部材に対する6会提言が公表されるなど、責任の所在に対する役割分担を明確にしようという動きも見られる。本特集では、非構造部材に対して、構造設計者が係わる場合の注意点や設計手法などを解説する。

## 10月号 「木造建築物の防耐火設計」

[監修：（）]

原稿締切日：2018年8月下旬 雑誌発売日：2018年9月16日

## 11月号 「自立循環型非住宅建築物の設計マニュアルの早わかり」

[監修：澤地孝男（国立研究開発法人建築研究所理事）]

原稿締切日：2018年9月下旬 雑誌発売日：2018年10月17日

「自立循環型住宅への設計ガイドライン」が発表されてから、10年が経ち、来年の春先には非住宅の設計ガイドラインが発表される予定である。本特集では、非住宅の設計ガイドラインの解説を中心に、今後、非住宅の建築物に求められる省エネ性能について、その根拠と具体的な設計上での対処法を解説する。

## 12月号 「構法等から新たな構造システムの展開を試みる」

[監修：腰原幹雄（東京大学教授）]

原稿締切日：2018年10月下旬 雑誌発売日：2018年11月17日

建築物をつくる仕組みや精度について取り上げてきた。本特集では、建築物のつくり方からの側面をフォーカスすることにより、新たな構造システムを考察することを試みたい。

※特集テーマ、監修者、特集の順番は、変更になる可能性があります。あらかじめご了承ください。